

令和6年度 狛江こだま幼稚園関係者評価 報告書

学校法人狛江こだま学園
狛江こだま幼稚園

開催日 令和7年4月4日金曜日

○対象者 学園評議員、幼稚園地域関係者、保護者代表、園長、主事、教員代表

1 自己評価について

実施日：令和6年7月19日、令和6年12月20日、令和7年3月18日

＊毎学期末に毎月の反省会と併せて、重点項目についての意見交換会を開催

実施日：令和7年3月26日

＊幼稚園運営に関する事項、幼稚園管理に関する事項、今年度の重点項目に関する事項

2 本園の教育目標

集団生活を経験することで、社会性を身に着けるとともに個性を伸ばし、豊かな情操と健康な身体を育成する。

- 個性を尊重し、人格形成の根幹ともいえるべき健全な心身の育成を目指す。
- 基本的な生活習慣を身に着け、豊かな情操の芽生えを育み、正しい対人的、社会的な態度の素地を育成する。
- 生活経験を通し、思考力、自主的態度、自立心などの高揚を図る。

3 評価項目

	評価項目	評価	取り組み状況
1	年間行事を含め、教育課程の継続的見直しと改善を図る 昨年度、教育分野によって改訂した三ヵ年カリキュラムを検証する	A	園児自らが考える姿勢を重視し、教育目的に向け教職員の言動を含め指導にあたった。 園児の創造性や発展性を求めて、園児の意見聴取を優先して、実践できた。 体育的要素（スイミングと体育あそび）および音楽（鍵盤ハーモニカ習得）について、当年度実践して確立することができた。年長児のカリキュラムを策定する。
2	教育の質向上のために、園内研修を充実させる。 個々の教材研究と日々の活動に対する自己評価をして、園児の感覚を把握する。	A	従前通り、日頃の教員間における情報交換と園内の事例検証を学年または全教職員で取り組むことで、園の基本姿勢である全教職員で全園児を見守る体制強化に繋がり、教育体制を高め広げている。 園児自らが興味関心を寄せ、意見発表など取り組む

			ことに喜びがもてるように実践してゆく。 他園の指導方法や環境について、外部研修を通して教職員で共有することを次年度の課題とする。
3	幼児の教育環境の整備と 内容・方法の改善	A	天然芝生の維持管理を年間通して、委託業者の実施計画と併せて、自園にて時期に応じた作業を並行実施していることで、維持拡張できている。 農作物や植物、樹木への興味関心を高める要素として、園内で植え付けから収穫まで体験できるよう計画し、実践できしており、実際に食することで新鮮さを実感し、園児の食の幅広がっている。 小動物や水中の生き物について見学やふれあい体験することで、生命あるものおよび食において、「いただく」ことの意義について実感できている。小動物と魚類を体験参加することで、知識や興味が高まっている。
4	幼児の運動機能・能力を養う。 身体を動かすこと、できた喜び を実感する チャレンジ精神の高揚	A	集団あそびや自由あそびを通して、脚力・腕力を自然体で鍛え、思わぬ怪我の発生を回避し、怪我をしにくい遊び方を常日頃から指導している。 皆で意欲的に挑戦しようとする雰囲気を作り、チャレンジカード（園内作成）を活用して、練習した成果で結果に感動する喜びを味わっている。
5	特別支援教育のための 園内支援体制を 整備・強化する		必要に応じて人員配置を増員し、園児が安心して生活できるよう配慮している。 また、公的機関の研修会等へ参加し、内容を教員間で共有し、該当園児にあわせて工夫し対応している。
		A	技術および知育を高めるために、個別指導を行い、個人にあった教育的配慮（教材や補助具等）を見出し、実践したことで、集中する時間や技術の高揚が顕著であった。

評価 A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった

4 総合的な評価結果 A

学年別カリキュラムに沿った月毎の3学年を通した活動予定表および実施資料から、計画的な教育活動を編成し、全教職員が報告会と資料で把握し実践している。また、週案ベースの書式に、日々の反省欄と達成度（自己評価）欄を設けることと、一週間ごとの技術指導項目（はさみ指導、絵の具指導など）を明記することで、次週および今後の指導方法・内容に反映できている。

保護者への周知については、毎日の活動報告をアプリにて配信し、定期的な通知物で行っている。また、園児の日常生活の様子やイベント等をビデオ配信することで、保護者への活動認知も高くなっている。保護者が参観日とは違う自然の園児たちの様子を見ることで、成長を共有できている。

「教員目線ではなく、園児のから見た活動内容である」という、園の教育方針に合致した生活が送られている。製作や絵画など実在する作品と幼児同士の関係性を観察することで、幼児自らの育みが伺える。今後は、「考える力」と「自分の気持ちを伝える」ことを最優先に教育活動に取り組んでゆく。

幼児教育にとって、日常的に誰もが顔と顔を会わせて生活することが望まれるところであり、園児一人一人が安心して生活できる環境づくりに取り組み、親身なる対応が魅力的でありその実践成果は卒園児保護者からのコメントで判断できる。

時期に応じた行事は子ども達にとって、大切な経験であり、その準備や過程とともに発表する喜びは、幼児の学びとして確立している。また、春と秋の「ふれあい動物園」と「ふれあい水族館」は、遠足とともに興味深い行事である。また、一泊保育でのカレーに自分たちが植え付けたじゃがいもを入れ、食することは一生の思い出の味となるに違いない。

年度末の父母の会だよりに掲載へのアンケートでも、一泊保育は一番の思い出との回答であった。グルリンランドの大型遊具も園児たちは楽しい空間であることが回答にあった。

教職員の日頃の熱心な活動と近隣の方々のご理解によって、子ども達のための幼稚園生活が送られている。

5 今後取り組む課題

- ① 「考える力養う」教育内容及び指導方法と「自分の気持ち及び考えを発言できる」環境設定を教職員一人一人が工夫・探求・実践してゆくことを最重要課題として取り組んでいく。
- ② 当園の教育目標に沿って、「園児にとっての幼稚園環境」であることを念頭に、園児一人一人を把握した教育内容であること、実践することでその都度、自己および学年としての検証を行い、次に生かしてゆく。
- ③ 教師一人一人の教材研究および指導方法の探求を充実させ、さらに質の向上を図る。
外部研修を計画的に取り組み、他園の教育状況や教職員の姿勢を学び、自園の教職員と共有してゆくこと。
- ④ 継続的に幼児にとっての教育環境を整備してゆく。
広大な園庭と室内プールの有効的な活用と情緒安定に欠かせない芝生の維持管理について、継続的に検討・実践し検証してゆく。登園の特徴である、園庭と室内プールをさらに活用度を増す。
- ⑤ 幼児一人ひとりの成長に合わせた教育指導態勢を整え、安心して生活できる教育の場を維持

向上してゆく。特に配慮の必要な園児に対して、教育効果を高めるために家庭保護者の理解と教職員の適正配置と指導内容、実践活動について検証し実践してゆく。

個別プログラムをつくり取り組んだことは、保護者から子の成長を実感し、成果として評価をいただいている。さらに、個に合わせたプログラムを実践してゆく。

- ⑥ 教職員の働き方（勤務時間）が異なるので、勤務体制と勤務時間の改善を協議し、より働きやすい職場となるよう互いに協力し合う。次年度は、全体始礼時刻を変更してゆく。
- ⑦ 園児数の減少率を抑える経営的努力と、園児数減少による経営的側面からの適正人員と労務管理等に留意する必要がある。

6 卒園児保護者による学校評価の実施（平成 21 年度より実施）

令和 7 年 3 月卒園児保護者に実施（73 名）

回収率 82.8%

以上

狛江こだま幼稚園の幼稚園評価について

幼稚園は教育機関として継続的に改善してゆくことが大切であり、そのために自己評価および学校評価を実施します。評価を通して、教育の質の向上を目指し、幼児の健全な発達を支える基盤としてまいります。

○当園での自己評価および学校評価（幼稚園評価）

1. 教育目標・重点目標の確認…年度始め教職員会議

前年度教職員および保護者アンケート結果の公表と意見交換

⇒昨年度評価の確定と今年度の目標設定

2. 自己評価 ①学期末に、諸行事諸活動に関する反省と申し送りを会議形式で開催

②年度末に幼稚園運営に関する事項、幼稚園管理に関する事項と今年度の重点項目に関する事項について、アンケート形式で調査・回収・集計・教職員間公表

3. 卒園児保護者へのアンケート調査・集計

4. 幼稚園関係者評価…教育方針および教育内容の報告と教職員および保護者アンケート結果の報告とそれに伴う評価報告を行う

参加者からの意見提言をいただき、今後の課題等の提起する。

学校法人狛江こだま学園

事 長 毛 塚 敬 進

令和6年度 教職員対象 幼稚園評価【重点項目に対する内容】

評価

1. 教育課程に関して

① 年間行事を含め、教育課程の継続的見直しと改善を図る

A

② 昨年度、教育分野によって改定した三カ年カリキュラムを検証する

A

主な意見
・鍵盤ハーモニカにおいて、年長期の活動を次年度検証したい
・水泳指導と体育指導について、継続的に取り組み、今後も園児の対応を観て計画は修正してゆく。

2. 研修・研究について

教育の質向上のために、園内研修を充実させる。

A

個々の教材研究と日々の活動に対する自己評価をして、園児の感覚を把握する。

A

主な意見
・園児との関わりを強化する上でクラス単位の教育活動に意識を高める。
・補助教職員との連携を強化して、園児にとって不安を与えない環境を保持する。
・はさみ指導は、さらに工夫を重ね、家庭での協力を得ながら上達させてゆきたい。
・教育時間内の水泳指導と課外活動の水泳指導とを意識して、継続的に取り組む。

3. 教育環境について

幼児の教育環境の整備と内容・方法の改善

A

主な意見
・園児の事故・怪我防止に最善を期す
・園庭固定遊具等の「怪我をしない遊び方」の指導について、適時行う。
・保護者との信頼関係を損なわないための親身な対応に留意する。
・通園バス利用園児保護者への日常の報告手段を工夫したい。
・卒園児保護者からの評価を大切に維持したい。

4. 幼児の身体機能に対して

幼児の運動機能・能力を養う。

A

身体を動かすこと、できた喜びを実感する

A

チャレンジ精神の高揚

A

主な意見
・広い園庭の活用範囲を広げる。毎日のめてひを充実させる。
・異年齢の園児たちの遊びについて観察し、あそびを通した発想や言葉を発見し次に繋げたい。
・チャレンジカードを活用して、より達成感を味わえるように回数、言葉掛けを工夫してゆく。
・挑戦する遊具あそび（鉄棒、雲梯など）、縄跳びなど個人技術の向上に興味を持たせたい
・集団遊び、ゲームの楽しさを実感させたい

5. 特別支援に対して

特別支援教育のための園内支援体制を整備・強化する

A

主な意見
・ひとり一人の特性を理解するための時間や集団から離すタイミングなど、検証してゆくことが必要。個々違うところに対応が難しい。
・個別指導によって、達成度が著しく異なる成果がある。名前書き、鍵盤ハーモニカなど
・個々のシートを使って、継続的な活動をしてゆく。

保護者対象 粕江こだま幼稚園の評価について【報告】

アンケート方法…幼稚園運営に関する事項と幼稚園管理に関する事項について、各設問ごとに【Aとても思う、B思う、Cあまり思わない、Dほとんど思わない、Eわからない】から選び回答を得る。

○本評価において、各項目で評価割合の多いランクを示す

A：とても思う、B：思う、C：あまり思わない、D：ほとんど思わない

実施日 2025年3月

対象 卒園児保護者73名（回収率 82.8%）

幼稚園運営に関する事項

1. 幼稚園教育の基本方針と組織		
1	教育理念や基本方針が明確である	A
2	園長はリーダーとしての責任を果たしている	A
3	教職員間で協力して、教育活動に取り組んでいる	A
4	地域交流に心がけている	B
5	安全・衛生点検に心がけている	A
6	子どもたちに適した、教育環境が整備されている	A
7	食育についての取り組みができています	B
8	環境問題へ取り組みがなされている	B
2. 保育内容の確認（園全体）		
1	幼稚園教育要領をふまえて日々の保育を行なっている	A
2	保育内容に無理なく、バランスよく行われている	A
3	年間の活動計画に工夫がみられる	A
4	行事の配置は適正である	A
5	製作物等に工夫が見られる	A
6	教職員間で子どもたちの共通理解がなされている	A
7	安全指導や避難訓練などにより、子どもたちの安全に取り組んでいる	A
3. 教職員について		
1	子どもとの信頼関係の確保に努めている	A
2	子どもの様子を的確に把握している	A
3	子どもたちを大切にしている	A
4	日常の保育活動について、保護者に正確に伝えている	A
5	日常の保育活動に熱心に取り組んでいる	A
6	保護者からの相談や連絡事項に、丁寧にかつ適正に対応している	A
7	社会人としてのマナーを身につけている	A

4. 園児の様子		
1	子どもたちが楽しく活動に参加している	A
2	子どもたちが活躍する場面が多く、内容が充実している	A
3	子どもたちが行事を楽しみにしている	A
4	幼稚園での出来事を積極的に話している	A
5	幼稚園の集団生活による成長が感じられる	A
6	幼稚園生活でお子さんに顕著な成長が見られる	A
7	いじめ・差別・性差別などの対応が適切に行われている	A
8	幼稚園と小学校との連携に努めている	A
5. 幼稚園全般		
1	園全体に活気がある	A
2	幼稚園の教育活動に満足している	A
3	ご友人のお子さまに入園の紹介ができる	A

幼稚園管理に関する事項

1. 安全点検		
1	登降園に関する安全確認がなされている	A
2	施設・設備、遊具に対する安全対策ができています	A
3	不審者への対応がなされている	A
4	事故予防および事故発生時の対応手段が整っているか	A
2. 諸法規の遵守		
1	学校保健法、伝染病予防法に対応している	A
2	道路交通法に対応している	A
3	保護者、園児の個人情報の管理が適切になされている	A

教育効果に関する事項

6. 幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について

1	健康な心と体	A
2	自立心	A
3	協同性	A
4	道徳性・規範意識の芽生え	A
5	社会生活との関わり	A
6	思考力の芽生え	A
7	自然との関わり・生命尊重	A
8	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	A
9	言葉による伝え合い	A
10	豊かな感性と表現	A